



Malevolent

Modular Pure Analogue Synthesiser

PWM Malevolent

PWM のモジュラーピュアアナログシンセサイザー Malevolent をお買い上げいただきありがとうございます。

Malevolentは、本物のアナログ設計に必要なものをすべて備えながら、USB-C、MIDI、クロックI/O、デジタルとアナログの世界間のシンプルなインターフェイスを備え、スタジオで快適に使用できます。Malevolentには、4046ベースのコアから派生した 2 つの適切な VCO が用意されており、歌うような音も唸る音も同等に奏でられるため、アナログ側で妥協することなくこれらすべてを実現しています。

オプト FETコントロールのサレンキー型2ポールフィルターは、デジタルでは得られないような口笛のような音やせせらぎのような音を奏でることができます。まさにこれこそが Malevolent の核心であり、生き生きと息づいているのです。

可変レートビブラート、可変スピードグライド、ピッチベンドを備えたジョイスティックを含む Malevolent のコントロールをマスターすることを楽しんでいただければ幸いです。

Malevolent は学び、そして愛すべき楽器です。私たちはMalevolentを愛しています。あなたにもそうなっていただけることを願っています。

はじめに

このガイドは、Malevolentのセットアップと初めてのサウンド作りに役立ちます。

アナログシンセ特有の操作があるため、最初の体験ができるだけスムーズに進むよう、こちらのガイドを必ずお読みください。

1. パッケージを確認する
2. 電源を接続する
3. ヘッドフォンまたはスピーカーを接続する
4. 最初のサウンドを作成する
5. 次に試す事項
6. チューニングのヒント
7. USB-MIDIと追加機能について
8. トラブルシューティング
9. 保証について
10. 空白のパッチシート

1. パッケージを確認する

Malevolentの箱には以下のものが入っています。不足しているものがある場合は、すぐに販売店にお問い合わせください。

- PWM Malevolentシンセサイザー
- このガイド
- 9V DC600mA電源(お住まいの国に合わせて交換可能なヘッド付き)
- USB-AからUSB-Cへのケーブル
- 3.5mmパッチケーブル5本

2. 電源を接続する

Malevolentをパッケージから取り出し、平らな場所に置きます。

電源を箱から取り出します。箱の中のフォーム製の端の1つに入っています。同梱されている交換可能なヘッドを確認し、お住まいの国に適したものを選択して、慎重に装着します。

Malevolentの電源がオフになっていることを確認します。

ワイヤーの小さい方の端をMalevolentの背面にある電源ソケットに接続し、電源を利用可能な電源コンセントに差し込みます。

Malevolentの電源を入れると、いくつかのLEDが点灯します。LFOのLEDが点滅します。

注:Malevolentを、USBバスパワーで動作させることも可能です。ただし、すべてが正しく動作していることを確認するために、最初は電源を使用することをお勧めします。

3. ヘッドフォンまたはスピーカーを接続する

- Malevolentの背面パネルには、ミキサー、アンプ、またはパワードスピーカーに接続するための1/4インチTSライン出力ジャックが装備されています。
- 背面パネルには、ヘッドフォンを接続するための1/4インチTRSヘッドフォンジャックが装備されています。

上記いずれかの方法で本機を接続して音を聞くことをお勧めします。最初は「マスターボリューム」を最小にしてください。

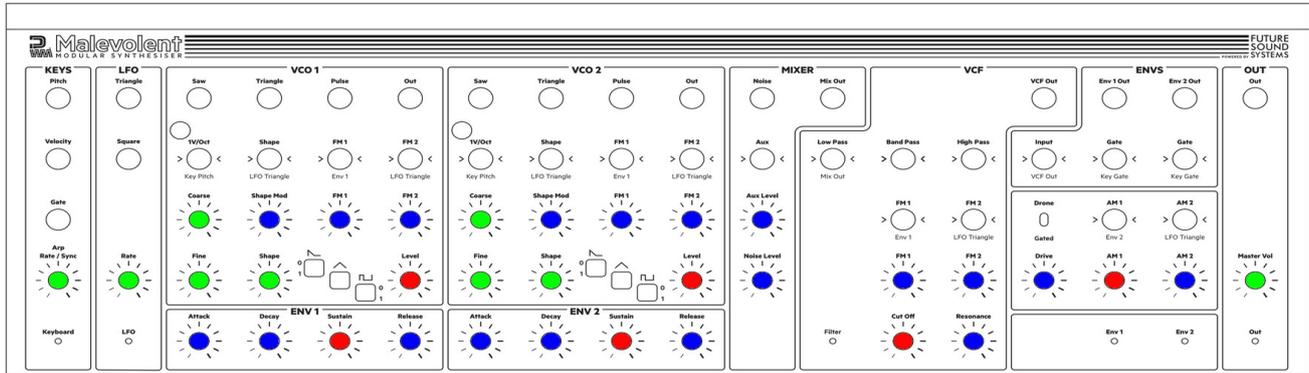
注1:コントロールの位置によっては、Malevolentの音量が大きくなる場合があります。最初にマスターボリュームを上げるときは、少しずつ上げるようにしてください。

注2:Malevolentには、他のモジュラーギアにパッチするための3.5mm出力ソケットも上部パネルにあります。このソケットを使用する場合は、レベルがマスターボリュームコントロールの影響を受けないことに注意してください。

注3:Malevolentを初めてオンにするときは、アンプとスピーカーの音量を小さくしておいてください。突然大音量で鳴る可能性があります。

4. 最初の音を出す

a) 以下のガイドを参考に、ノブの位置を次のように設定します:



青は最小または反時計回りに完全に回した状態にします。

緑は中間位置または12時の位置にします。

赤は最大または時計回りに完全に回した状態にします。

b) 次に、VCO1セクションの波形選択ボタンの1つを押してオンにします。

LEDが点灯します。

c) キーボードを弾いてみましょう。オシレーター1の音が聞こえます。

5. 次に試すべきこと

提案:

- VCO2セクションの波形選択ボタンの1つを押してオンにします(LEDが点灯します)。これで、演奏すると両方のオシレーターが聞こえます
- 各VCOセクションで波形のオン／オフを切り替えて、さまざまな組み合わせの波形を試します
- Coarse とFine tuneコントロールを使用して、オシレーターをチューニングします(チューニングが合っても合っていないくてもかまいません)。
- キーを離したときにサウンドが突然切れないように、ENV2にリリースを追加します
- VCFセクションのレゾナンスを上げ、演奏中にカットオフをゆっくりと下げます。ドライブを追加して効果を高めてみましょう。

6. チューニングのヒント

Malevolentは本物のアナログエレクトロニクスを使用して製造されています。つまり、最初に受け取ったときのチューニングは完璧ではない可能性があります。このため、環境に合わせてチューニングを設定できるように、いくつかの便利な機能を追加しました。

Malevolentには、チューニングを可能な限り安定させるための温度補正コンポーネントが含まれていますが、チューニングを開始する前に1~2分待つことをお勧めします。

「Vibrato」ボタンを押したまま、キーボードの中央のキーを押して離します。演奏した音、1オクターブ上の音、1オクターブ下の音を含む音の繰り返しパターンが聞こえます。

「Vibrato」ボタンを押したまま、OCTAVE +/-ボタンを軽くタップしてオクターブチューニングを伸縮します。満足したら、「Vibrato」ボタンを離します。チューニング中に迷った場合は、両方のOCTAVEボタンを同時に押して、工場出荷時の設定にリセットします。チューニングの調整は自動的に保存されます。

7. USB-MIDIと追加機能

Malevolentはクラス準拠のUSBデバイスです。つまり、USB経由でコンピュータに接続でき、追加のドライバをインストールしなくてもコンピュータが自動的に認識します。

標準のコントローラキーボードとして使用でき、ジョイスティックはモジュレーションメッセージとビブラートメッセージを送信できます。これらのメッセージは、ソフトシンセやその他のMIDI楽器のコントロールに使用できます。HOLD機能はUSB-MIDIでも機能し、Malevolent自体はモノシンセですがポリフォニックMIDIコントローラとして使用できます。

USBまたはMIDI Inを使用する場合、MalevolentはデフォルトでMIDIチャンネル1でメッセージを送受信します。これは、電源投入時にキーボードのキーを押したままにすることで変更できます。最も低い「F」でMIDIチャンネル1が選択され、最も高い「G」でチャンネル16が選択されます。チャンネルの選択は、電源を入れ直しても記憶されます。

Malevolentにはローカルオフモードがあり、電源投入時に「Arp」を押したままにすることで有効にできません。ローカルオフモードの状態は、電源をオフにしても保存されません。

MIDI Tx/Rxチャンネル、ストレッチチューニング値、ピッチバンド範囲、およびHOLDモードを工場出荷時のデフォルトにリセットするには、キーボードの一番上の「C」を押したまま電源をオンにします。

8. トラブルシューティング

問題が発生した場合は、弊社のWebサイト <https://hookup.co.jp/contact> よりお問い合わせください。

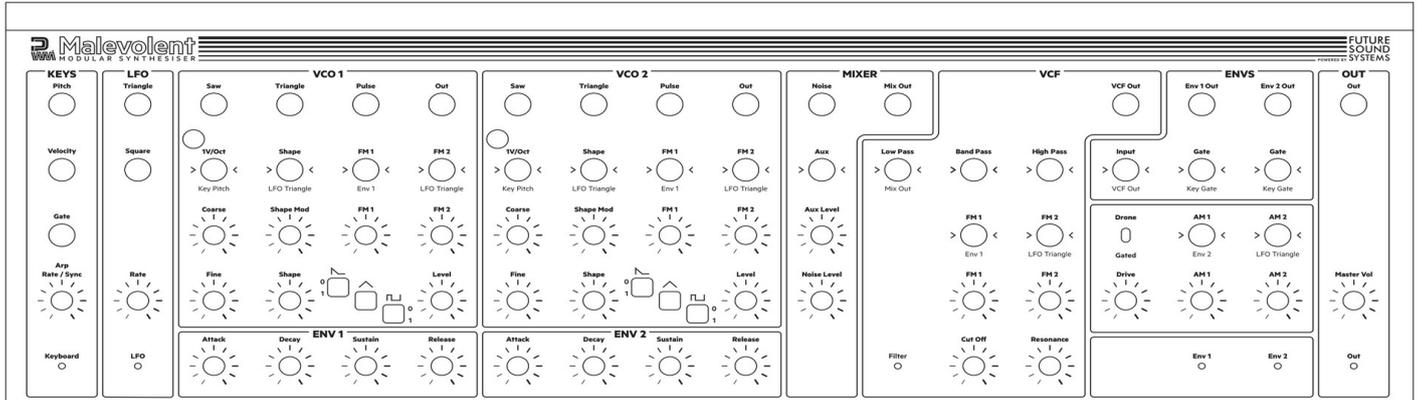
9. 保証について

Malevolentには、購入日から1年間のメーカー保証が付いています。

注意:各VCOセクションの1V/Octジャックのすぐ上にあるトリムポットの穴には何も挿入しないでください。これらのトリムポットは、メーカーとサービス専用です。これらの穴に何かを挿入すると、保証が無効になります。

基本的に、これらのトリムポットは工場で設定されており、調整する必要はありません。ただし、問題があると思われる場合は、ご連絡ください。!

10. 空白のパッチシート



PWMはPaulWhittingtonGroupLimitedの登録商標です。
 © 2022 Paul Whittington Group Limited. All rights reserved.

